

NPO法人

第76号

# 芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1578  
TEL 090-4135-3193 FAX 055-288-2722 HP <http://ashiyasu.com> Mail [afc3193@nus.ne.jp](mailto:afc3193@nus.ne.jp)

## 芦安ファンクラブ忘年会登山にて



～何故豚汁なのか～ (2019.12.14 茅ヶ岳)

芦安ファンクラブ 小林成正

コッヘルの蓋がカタカタと音をたて、湯気が立ちのぼり、青空に吸い込まれていく。茅ヶ岳に吹く風も清々しく、味噌の匂いが鼻をくすぐる。

「山頂でラーメンを食おう。」

もう、30年以上前になるか、文部省登山研修所で行われた、全国山岳救助指導者研修の我が班長の突然の宣言。明日は研修の最終日、ご褒美的に剱岳山頂に行くことになった。班長さんは40歳代後半というか、もう50歳と言ったほうが良い人で、最初の挨拶が「年寄りですが、志願してきました。目標は足手まといいにならないことです。」というもの。しかし、ガッツはすごい、歯をくいしばる形相は年齢を感じさせない。そんな班長の申し出というか宣言、誰も反対はしない。ただ、昼食の食料はクラッカーやチーズなど日数分をドカッと個人に配給されているし、コッヘルなどない。もっと言えばラーメンもない。そこで、燃料は富山の山岳警備隊から、鍋やどんぶりや箸は室堂の宿舎のおばちゃんから借りた。鍋はいわゆる普通の鍋、その中に、食堂で使う普通のどんぶりと箸を入れ、「もってけ」と言い、理由も聞かず人数分のラーメンもくれた。

山頂で食ったラーメンは美味かった。チャルメラだったと思うが思い出せない。残念。

人と食事をともにするということには色々な意味がある。

友情や親しみを深めるのに、絶対的に温かく贅沢な食事はいらないと思う。凍った握り飯を分け合っても友情は深まる。いまできる精一杯のことで十分だ。

研修が終われば生涯再会することもない者も居るだろう。班長の宣言は、班長の「ありがとうございました。」という言葉だろう。だから、水は俺が背負うと言って譲らなかった。

茅ヶ岳の空は青く、南アルプスも白く輝く、豚汁もうまい。温かいからか、一緒に食うからか、いずれにしてもうまい。それだけでよい。またいつか、こうやって集まって精一杯のご馳走を食べたいものだ。しかし、一杯しか食べられなかったのは残念だ。

先行荷揚げ調理班員の特権を生かすべきだった。味見は重要な仕事だったのに。



# 第18回トム・ソーヤスクール企画 コンテスト受賞報告

芦安中学校 登山担当 安田祥子

**主 催** : 公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団

**受賞活動**: 「五感で感じる体験—南アルプス「鳳凰三山」への全校登山及び自然環境・森林保護活動等の支援」

**受賞団体**: 南アルプス市立芦安中学校

委託 特定非営利活動法人芦安ファンクラブ

**受 賞** : 学校部門 優秀賞

1月25日(土)に安藤百福発明記念館横浜(愛称:カップヌードルミュージアム横浜)で行われた受賞式に参加してきました。自然体験活動にとって大切な「企画力」の向上を図るために、全国からユニークで創造性に富んだ自然体験活動の企画案を公募しているそうです。芦安中学校全校登山のこれまでの歩みと今回の取り組みが、審査員の登山家の方々に大きく評価されました。

表彰式で、石原校長先生が表彰状を小笠原流礼法で授与されました。活動報告の、鳳凰三山登山のときの目的地に到着したときの喜びに浸り、生徒同士が笑顔で抱き合う写真が印象に残っています。

芦安中学校の全校登山は、学校行事として位置づけられて実施することができていますが、芦安ファンクラブの全面的なご支援や、保護者・地域の方々のご理解があって続いているのだということを改めて痛感しました。また、この行事が、中学生の「生きる力」を育む、類稀な価値ある活動であるという重みを感じました。



この度の受賞に当たり、応募から報告書提出まで全面的にご支援くださった竹本さん、全校登山指導者の清水准一会長をはじめ支援者の皆様に感謝申し上げます。子どもたちの未来がより豊かなものになるよう、努めたいと思います。今後とも変わらぬご支援のほど、よろしくお願いいたします。

今回の全校登山の事前学習から当日までの様子は、安藤財団のトム・ソーヤコンテストのHP.

「自然体験.com」で紹介されています。

HPアドレス <http://www.shizen-taiken.com/>

企画コンテストプログラム検索→速報レポート [1] [2]



## 全校登山活動の達成度 ①

- 景観や植物などに目を向ける  
感性の醸成、カメラでとらえた一瞬の様子



レポート「最高的一枚～心的一枚」  
感動を自分のものとして表現することができる力



- 学園祭(白峰祭)や芦安文化祭での展示  
登山活動への理解、芦安地域の活性化



授賞式当日のリハーサルと本番の間に、チキンラーメンミュージアム館内を見学しました。オリジナルのカップラーメンを作れるブースもありました。インスタントラーメンはあって当たり前前の今ですが、発明されなければ、山頂で食べることもできないのだなぁと思いました。創設者の安藤百福さんの歴史を知れるコーナーでは考えさせられる言葉に出会いました。中でも、発明前夜の「それは飢餓の風景からはじまった」という話が印象に残っています。紹介内容から、まだ無いものを見つけることの創造力を育むための考え方を学ぶことができました。

## 全校登山活動の達成度 ②

全校登山を通して

- **実感** 生きていること
- **共有** 希望・不安・達成感など
- **機会** 仲間や自分を見つめる  
今後の生活や生き方について考える




チキンラーメン  
半年分頂きました。



2020年度より白根御池小屋管理人が高妻さんから五十川さんにバトンタッチとなります。

高妻潤一郎さん、裕子さん、長年にわたり大変有り難うございました。

# 15年間の山小屋生活に感謝を込めて

## 白根御池小屋管理人 高妻 潤一郎

2004年の秋、塩沢さんから電話が入り、「山小屋の管理が出来るか？」との電話を受けて以来。あっという間に15年と言う歳月が過ぎていきました。のんきなもので、当時宿泊したこともない、御池小屋の話をして即答し、すぐに10月に家内と二人でそと小屋を見に訪れたのが、つい最近のようでもあります。その時すでに小屋は現在の小屋の建築に入っており、まだコンクリートの基礎工事の最中で、プレハブ小屋をさりげなく覗いて来たものでした。

翌年、青木さんとともにゴールデンウィークに小屋に入り、初年度は昨年まで提供していたカレーをお替り自由にして提供しようなどと打ち合わせをしながら登りました。前年まで管理をされていた中村さんから引き継ぎを受けていよいよ小屋をスタートしましたが、すぐに第二ベンチ付近で骨折者が出るなどのレスキュー事案もあり、また新御池小屋建設の中で慌ただしい1年であったことを覚えています。

翌年からいよいよ芦安ファンクラブの指定管理者制度に入り、小屋も新しくなったこともあって、開山祭の時には小屋前でファンクラブのみなさんと餅つきを行なったりしたのも今となってはとても良い思い出です。

青木さんの下で4年間の小屋生活の後、私が管理責任者となってスタートしたのですが、いままで青木さんが行なっていた仕事がいきにのしかかり、市への提出書類などの事は穂坂二郎さんに随分と助けていただきました。

また、南アルプス市に住居がない私たちに裏の倉庫を貸していただいたり、郵便物の受け取り先になっていたいただいたりなど、本当に柳原酒店のご夫妻にはお世話になりました。また、業者さんではオギノ食糧の荻野専務にも本当に助けていただきました。

食材の相談だけでなく、甲府でのおいしいお店なども教えていただきました。本当にありがとうございました。

もちろん会長の清水准一さんにも本当にお世話になりました。水回りのトラブルやメンテナンスの事などにも随分と相談にのっていただきました。清水工設の社長さんという立場で助けていただいたことではありますが、それ以外にも救助の時には「大久保基金の会」会長としてアドバイスをいただいたり、警察署との間に入ってとりまとめをしていただいたり、本当にいろいろな場所、場面で助けていただきました。

また、ここ数年間はファンクラブの会員である、岩間さん、花輪さん、堀内さん、富山さんに大変お世話になりました。岩間さんには小屋開け、小屋閉めはもちろんですが、救助の時にも随分と助けていただきました。また、二人で一緒に受験をし、合格した登山ガイドのステージ3も良い思い出になっています。花輪さんには忙しい時に飛んできてくれ、厨房内でのミ二甲州弁講座などは楽しい思い出です。堀内さんは2018年に小屋開けから随分と手伝っていただきました。ありがとうございました「くん(訓)さん!」。富山さんにはボッカ対応を随分としていただきました。東邦のヘリが飛ばない時にお米のボッカまでも・・・本当にありがとうございました。

まだまだ、お礼を言わなければならない方は大勢いるのですが、このように大勢の方々の助けがあっていろいろご迷惑をかけながらもここまで小屋をする事ができました。今度はお客さんとして南アルプスを楽しみたいと思います。本当にありがとうございました。

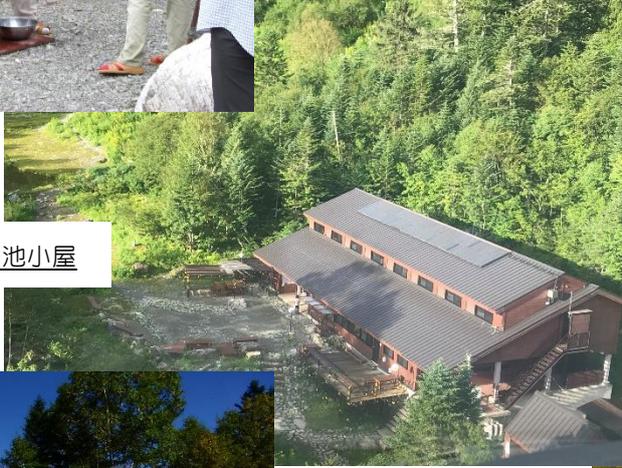


2008 開山祭での餅つき

2013 白旗先生と



2018 空撮御池小屋



2013 南アルプス署長より感謝状授与

2017 南アルプス市長と食事会



2018 水引き作業



2019 甘利山で最後の荷上げ終了



2019 最後の夜



2019 最後のお神酒を御池の神様へ



# 【連載】私と「山」と⑪

## 最終回 ～日本の1500山に登りました～

### 芦安ファンクラブ 井口 功

私、現在74歳で、本年4月には75歳になります。

最近高年齢になったために体力、気力、忍耐力などの劣化が酷くなってしまいました。そして2018年まで続いていた年間100日以上山行が昨年は93日に留まって仕舞い、自分としては、残念でなりません。しかし昨年3月、登山日数通算4000日、そして9月に山行に区切りというか1500山目の山に登頂することが出来ました。15歳からコツコツと山登りを続けて60年になります。残念なことに15歳から26歳までの登山日誌を失くしてしまい正確な日時が分からない山が幾つかありますが、登った記憶の確かなものは登頂1にして、27歳から今日まではノートにしっかり書き残してあるので標高順に表を作り書き留めてきました。そのノートは5冊になり山行日数は4090日ほどです。そして9月長野の佐久地方の【霊仙峰】で1500山に登頂することが出来ました。

1000山登頂が2008年半ばだったので、1001山～1500山に登るのに11年掛かってしまいました。

地域別に1500山を分けてみました。

北アルプス125座、南アルプス93座、中央アルプス24座、乗鞍、御嶽11座、南北八ヶ岳33座、奥秩父51座、山梨230座、長野172座、群馬168座、東北94座、北海道51座、中国四国14座、九州36座、東海北陸76座、新潟58座、その他（東京、埼玉など）2644座 以上で1500山になりました。

尚、27歳から今日までの山行日数は4090日ほどになり、私の好きな瑞牆山、金峰山、茅ヶ岳など奥秩父の山々は400回以上登っています。

また南アルプスの鳳凰三山には86回、北岳には68回など好きな山は何度も登っていますが、北岳は1山、鳳凰は薬師岳、観音岳、地藏岳にそれぞれ1山を与え3山として勘定しています。

最近では、新たに登る山が遠方にあるため中々行くことが出来ず、1500山にあと8山になってから1年も掛かってしまいました。これから先幾つの新しい山に登れるかわかりませんが少しでも増やせたらと思っています。

また17回の海外登山でのマッキンレーやモンブラン、アコンカグアなどの登頂した14山は入れていません。日本の山の登頂した数のみです。

（25000分の1の地形図に山名の乗っているピークを1山として勘定しました）

この記録を最後に【私と山】を終わりにします。芦安ファンクラブからも退会することにしました。入会したのは何時だったのか覚えていないが2006年の23号に私の記録がありましたので入会はそれ以前で、長い間大変お世話になりました。これからも登山は続けますので協力できる時はしたいと思っています。長い間有り難うございました。

